



@ふみ☆みらいスクール

みんなのちきゅうを まもるんば!

きょう もり まつ ひ
今日は森のお祭りの日。
もり い だいす た も
森の生きものたちは、大好きな食べものを持って、
もり あつ
森のばあばのひろばに集まっています。



カラスは、「カーカー、お祭り、楽しいなあ。ぼくは何でも食べちゃいますぞ!」とじまんげに言いました。
 カブトムシは、「ぼくは木のみつが大好きさ!」とあま〜いにおいのみつをゴクンとのみこみました。
 サルは、「ぼくはみかんやさつまいもが大好物でござる!」とむしゃむしゃ食べました。
 リスは、「私は大好きなどんぐりの実を持ってきたわよ」と大きな歯でガリガリ食べました。
 ミツバチは、「黄色い花のみつを持ってきたよ。ブンブン!」とトロトロのはちみつをペロリとなめました。
 モグラは、「私はなんとって、ミミズが好物よ〜。ウヒヒツ」と、じーっとミミズを見つめました。
 ミミズは、「今日はぼくを食べないでね」とお願いして、くされた葉っぱを食べて出すウンチを見せてくれました。

どうぶつや虫たちは食べたり、おどったり、お祭りは楽しく続いています。

するととつぜん、^{くろ}黒い雲が^{ちか}近づき、^{あめ}雨が^だふり出しました。

みんなは、^{もり}森の^{あば}あばの^{おお}大きな^は葉っぱの下に、^{した}いそいでかくれました。
^{あめ}雨は^{だんだん}だんだん^{よくなり}つよくなり、^{おおあめ}大雨になりました。

ピカッ!ゴロゴロ!!

すると、^{おと}ゴゴゴゴゴゴゴゴ……と音がして、
^みむこうに見える山が、^{やま}くずれてしまったではありませんか!
そこは、^{まつ}お祭りに^き来ていた^い生きものたちの、
^{だいす}おうちや^た大好きな^{もり}食べものが^{もり}たくさんある森でした。



「どうしよう…」

みんなのおうちがなくなったでござる……」

^{わたし}「私のおうちも…どうしてこんなことになったの?」
サルとリスがかなしそうにしていると、ミツバチが、
^{はな}話し^{はじ}始めました。

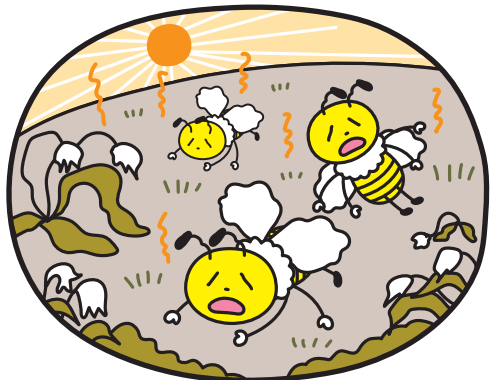
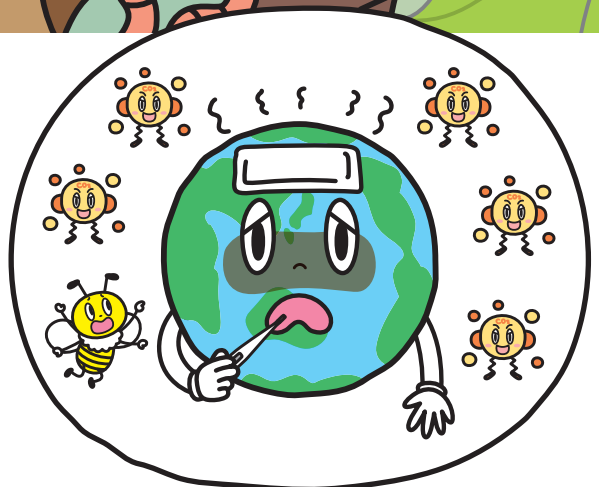
^{ちぎゅう}「地球が^{ねつ}熱を出して、^だ暑い日が続いたり、^{あつ}大雨が^ひふつたりしているのさ。ぼくたちは^{あつ}暑すぎると^{おおあめ}生きられない。だから、^{あつ}暑い日が続いた時に、^ひたくさんの^{つづ}なかが^{おおあめ}死んじやったんだ」

ミツバチの目には、なみだがあふれていました。

^{にんげん}「人間が^だシーオーツ-を^{ちぎゅう}たくさん出して、^{ひょうき}地球が^{でんき}病気になってしまったらしいんだ。シーオーツ-は、^{でんき}電気
^{みず}や^{つか}水を使うと^だ出てきて、^{ちぎゅう}ふえすぎると^{わる}地球に悪さを
するんだよ」

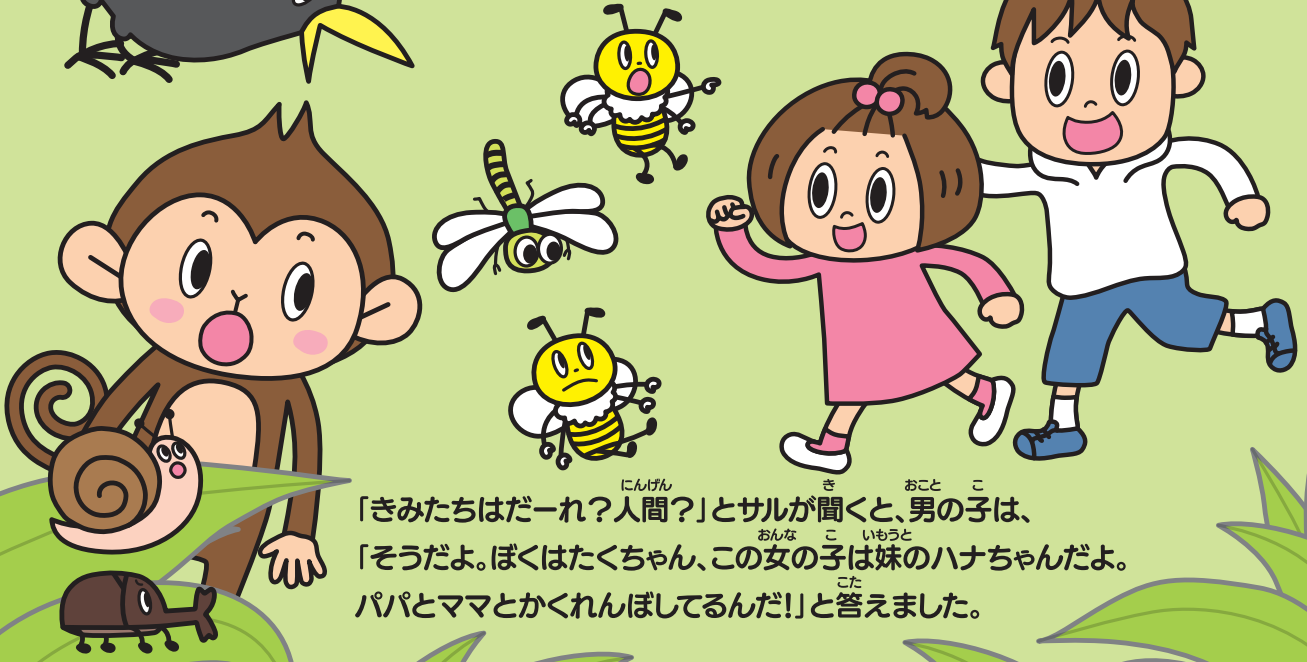
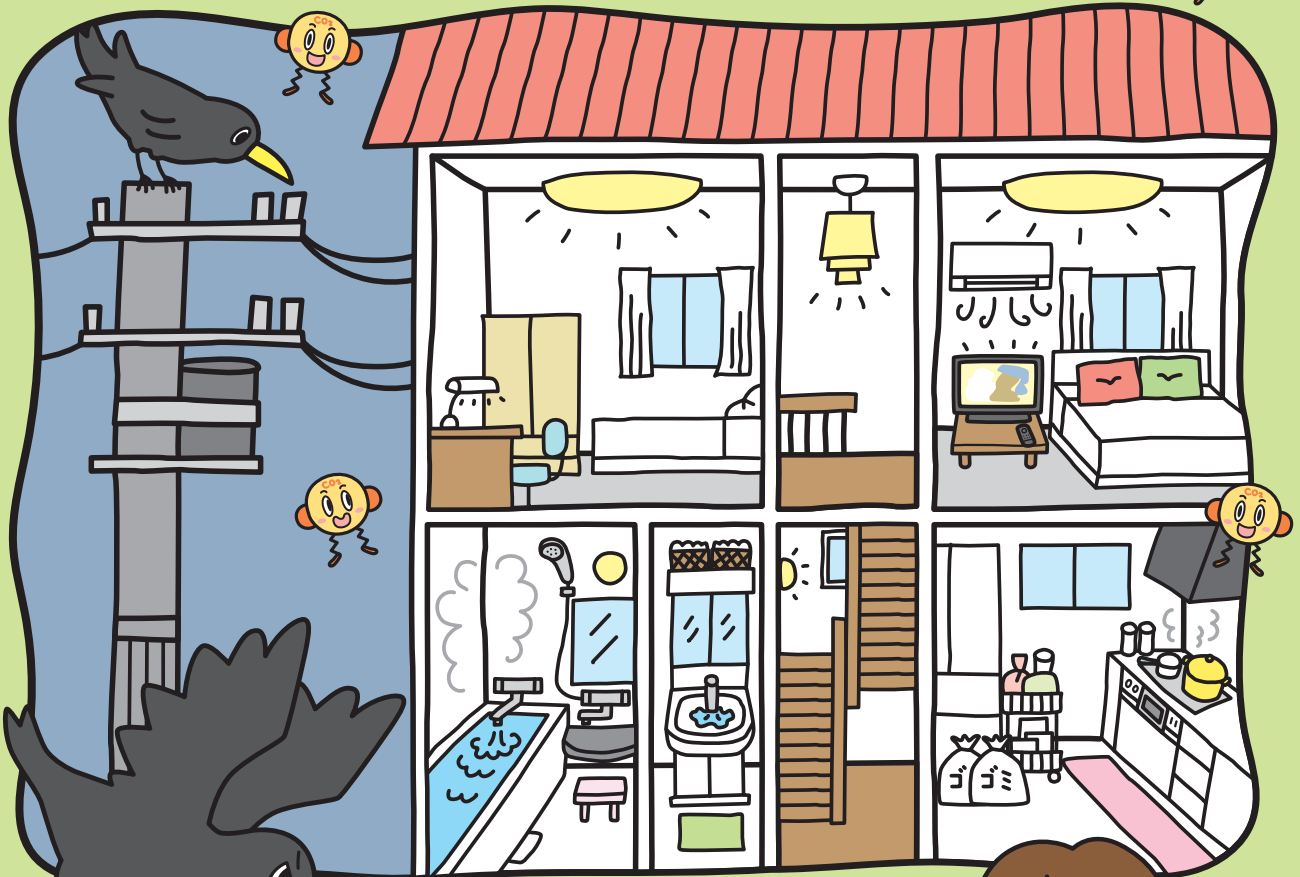
ミツバチはとてもくやしそうにしています。

※シーオーツ- = CO₂ = 二酸化炭素

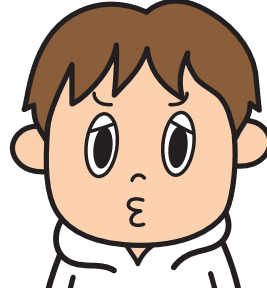


「そういえば、わたしがまちに^い行った^{とき}時、人間^{にんげん}たちがシーオーツ^だを出しているのをこの^め目で見ました^みぞ。食べ残し^たをい^のっぱい^こ捨てたり、だれもないへやの電気^{でんき}やテレビ^{でんき}をつけっぱなし^すにしたり、お風呂^{みづ}やキッチン^だの水を出しっぱなし^すにしたり、とてももったいない^だことをして、シーオーツ^だをたくさん出^だして^おりましたぞ」カラスはまちで見た^みことを思い^{おも}出して、はらが立^たってきました。

するとそこに、「まーだだよー!」^{にんげん}と^こいいながら、人間^{にんげん}の子^こどもたちがやってきました。



「きみたちはだーれ?人間^{にんげん}?」とサル^さが聞くと、男の子^{おこと}は、
 「そうだよ。ぼくはたくちゃん、この女の子^{おんな}は妹^このハナちゃんだよ。
 パパとママとかくれんぼして^{こた}るんだ!」と答えました。



「あなたたち人間にんげんがもったいないことをたくさんしているから、地球がちきゅうびょうきになって、私たちの大切たいせつな森もりがこわれているの」リスは、がまんできずに、おここって言いいました。

「そんなことし知らないよ!ハナちゃんは何なにもしてないもん!」というハナちゃんに、
「きみは、お風呂でずっとシャワーを出だしっぱなしにしてないですか?」と、カラスはこわい顔かおで聞ききました。
「ん〜…してるよ。だって水遊びはおもしろいもん!」ハナちゃんはプイッとそっぽを向むきました。

カラスは、今度こんどはたくちゃんに聞きいてみることにしました。
「きみは、学校がっこうに行いっている時ときにおうちでんきの電でん気きをつけっぱなしにしてないですか?」
「ん〜…つけてるよ、いちいち消けすのめんどうくさいもん!それがどうして悪わるいの?」
もったいないことをしているふたりの話はなしを聞きいたカラスは、
おここって二人ふたりにとびかかり、とうとうケンカが
始はじまってしまいました。

え——い!

や——い!

え——い!

や——い!



その時、森のばあばの目が、ゆっくりと開きました。

「ころころ…みんなよくお聞き。森の木や花、動物も、虫も、人間も、たった1つしかない地球の上で生きてる生きものなんだよ。ケンカはやめなさい!みーんなな友だちなんだからね」
森のばあばのお話を聞いて、みんなはケンカをやめました。

森のばあばが、「私たち森や動物たちは、人間にとって、ためになることをたくさんしているんだよ」と言うと、

サルは、「ウッキッキー!森の木は、きみたちが使う机やイス、おうちにもなるんでござー!!」

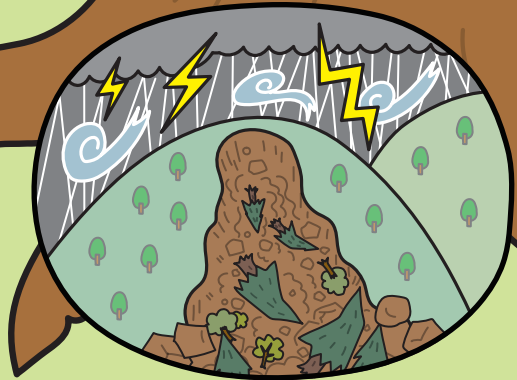
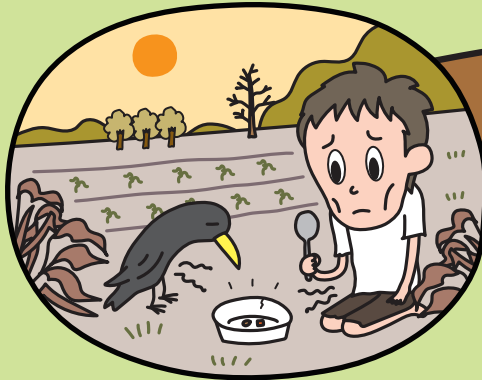
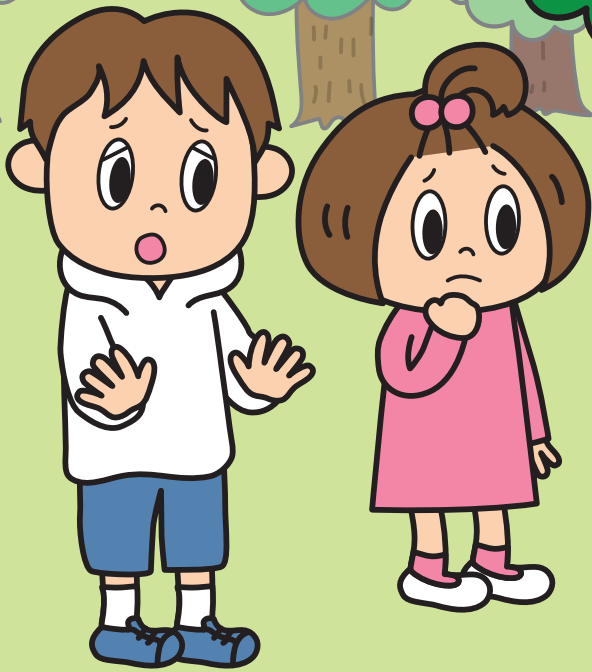
ミツバチは、「森の木は人間が出したシーオーツ-を、すいこむことができるんだ」

リスは、「森の木が作っているえいようたっぱりの水は、川や海に流れていて、人間が使う水道にもつながっているのよ」とじまんげに言いました。

他にも、おいしい食べものを育てたり、花があまいみつを作ったりすることを動物たちはおしえてくれました。

たくちゃんは、「森や森にすむたくさんの生きもののおかげで、うれしいことがたくさんあるんだね。さっきは、ごめんね」といって、みんなと、なかなかおりのあくしゅをしました。



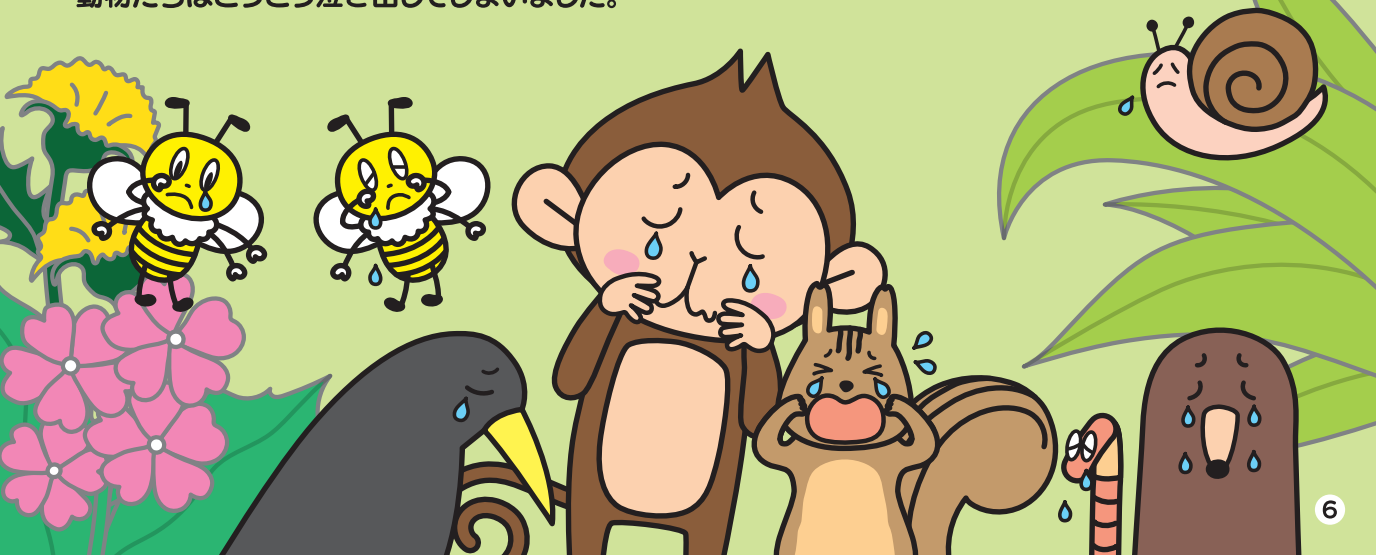


ところが、^{もり}森のばあばは^{かな}悲しい^{かお}顔をしています。

「^{にんげん}人間が^{もり}森に^{ちぎゅう}ゴミを^{びょうき}すてたり、^{ちきゅう}地球が^{びょうき}病気になって、^{きょう}今日のような^{おおあめ}大雨が^{もり}ふり、^{もり}森が^おくずれて^{おうち}おうちが
なくなったり、^た食べものが^{もり}なくなったり、^{もり}森にも、^あこまったことが^おたくさん^お起こっているんじゃ」

「^{おうち}おうちが…^{ごちそう}ごちそうが…^{わーん}わーん! ^{えーん}えーん! …^{カー}カー…^{ブンブン}ブンブン……^{キキー}キキー」

^{どうぶつ}動物たちは^なとうとう^な泣き^だ出してしまいました。

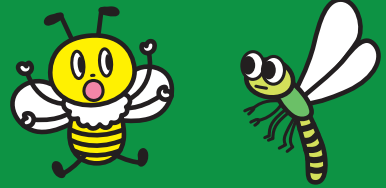


「^な泣かないで・・・^{かな}おうちがなくなったらばくも悲しいよ」
と言うたくちゃん。

たくちゃんは、テレビで見た洪水のニュースを思い出し、
森でも同じことが起きているんだと気がつきました。

「ハナちゃん、森や動物さんたちを助けたいなあ。
どうしたらいい？」
とハナちゃんが森のばあばに聞きました。

「そうじゃね～、森や生きものを大切にする
『まもるんぱ!』の約束をしてくれるかな？」
二人は「はい!」と元気よく答えました。



カラスは、「地球が病気になるように、たのみますぞ!」

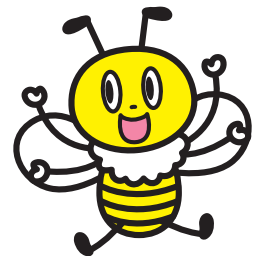
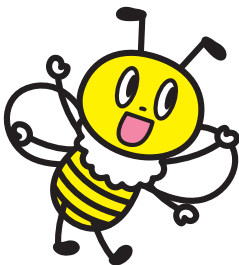
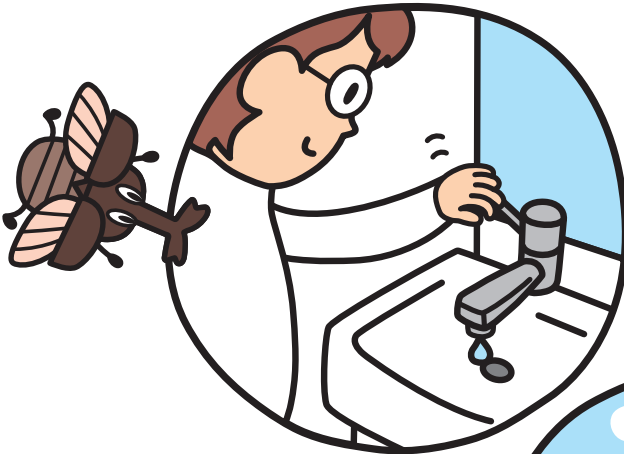
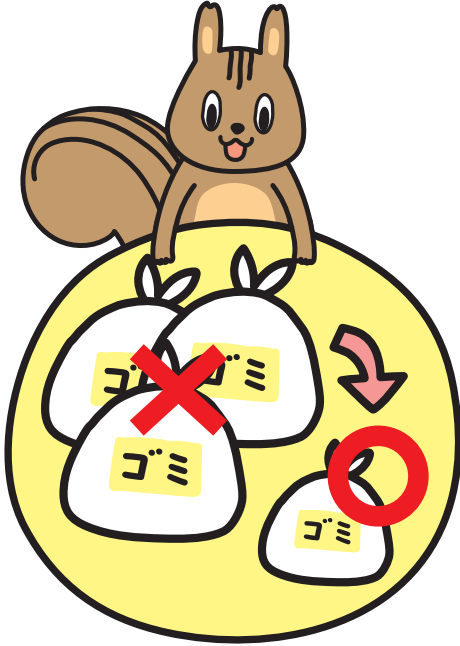
リスは、「ごみや食べ残しをへらすと、楽しいよ!もちろん、ゴミや生きものを森にすてちゃだめだよ!」

カラスは、「電気のムダづかいをやめると、カッコいいですよ!」

カブトムシは、「水を大切にすると、やさしい気持ちになるよ!」

ミツバチは、「森の木も大切にね!ブンブン」

動物たちは、今日の話をおうちの人やお友だちに伝えるように
お願いしました。



「『まもるんぱ!』の言葉^{ことば}を思い出し^{おもいだ}て、やさしい心^{こころ}を持つようにするよ」
たくちゃんとハナちゃんは、力強く^{ちからづよく}約束^{やくそく}しました。するとどうでしょう。

空^{そら}に虹^{にじ}が出てきたではありませんか!
みんなは、にっこり笑顔^{えがお}になりました。

「ねえねえ、みんなで、『まもるんぱ!』の歌^{うた}を歌おうよ!
本^{ほん}を読^よんでいるみんなも、いっしょに歌^{うた}ってくれと、
『まもるんぱ!』のパワー^{おお}が大きくなるよ」

とミツバチ^いが言^いうと、音楽^{おんがく}が聞^きこえてきました。



♪ ぼくらは まもるよ もりと いきもの
ムダな でんきを けて みずも とめて

♪ やさしくらし やくぞくしよう

♪ じょうきのちきゅうも げんきになるよ

♪ もりも ちきゅうも

♪ まーもるんぱ! まもるんぱ!

♪ みんなのちきゅうを

♪ まーもるんぱ! まもるんぱ!

「^{おとな}きみたちが^{とき}大人になった^{もり}時も、^{どうぶつ}森や^{むし}動物、^{はな}虫や^{ちきゅう}花、そして地球がずーと

^{げんき}元気^{たの}でいられるように、『^{もり}まもるんぱ!』を^{たの}楽しくやってくれないかい」

と^{もり}森の^おばあ^{こえ}ばあが^き聞くと、ふたりは「はい」と^{こた}答えました。

^{もり}森の^おばあ^{こえ}ばあ^きの^{こえ}えだが、ふたりの^{こた}かたを^きポんと^きたたきました。

すると、^{とお}遠くから^{こえ}声^きが^き聞こえてきました。

「もーいーかい? ^{こえ}たく^きちゃーん、^{こえ}ハナ^きちゃーん、いつまでかくれているの?」

それは^{こえ}パパの^き声^きでした。



こちらで歌が
聴けます



「みんなありがとう!ほく、『まもるんぱ!』の歌を、パパとママや学校のお友だちにも教えてあげるよ!!」
「ハナちゃんも歌うよ!」
「じゃあね、みんな元気だね!またねー!」
ふたりは、みんなに大きく手をふり、パパとママのところへ走って行きました。

「さあて、今日のお祭りはこれでおしまい」
森のばあばも笑顔になりました。

「これで安心だね。きっと人間たちがぼくたちを助けてくれるね。」

わたしたちも頑張るよ。森のばあば、ありがとう。バイバイ!!

そう言って、生きものたちは、新しいおうちとごちそうを見つけるために、

森に帰って行きました。

おしまい



〈読み終わった後、おじさまと一緒にこんなお話をしてみませんか?〉

- 動物や植物、森、人間はすべて地球に住んでいる仲間だということ
- 森の仕事や光合成のこと、森のめぐみ(食べ物やきれいで栄養たっぷりの水を作る、木材となる)のこと
- シーオーツースはどこから出ているのかな?
- ムダな暮らしてどんなことかな?
- みんながやれること、お友達でもできることって何かな?